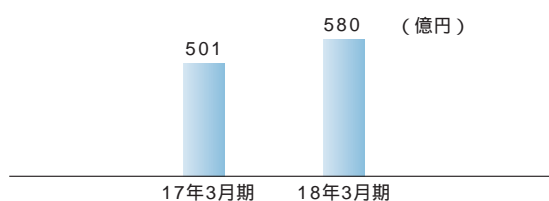


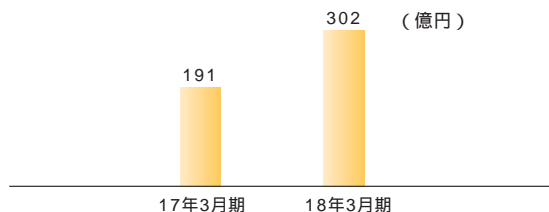
損益の状況(単体)

コア業務純益



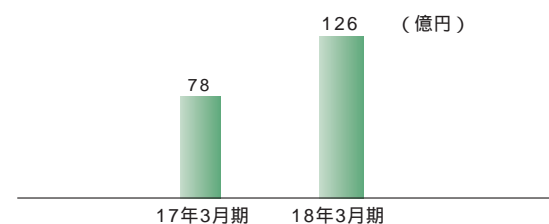
平成18年3月期のコア業務純益は資金の効率的運用、預り資産の増加等によるフィービジネスの拡大、経費削減の進展、および住宅ローン債権の証券化による譲渡益の計上等により580億円となりました。

経常利益



不良債権の最終処理促進に伴う信用コストの増加や店舗統廃合の前倒しに伴う特別損失の計上があったものの、株価上昇等による株主関係損益の増加もあり、経常利益は302億円となりました。

当期純利益



固定資産の減損会計適用による特別損失の計上もあり、当期純利益は126億円となりました。

平成17年3月期の計数は、西日本シティ銀行と、福岡シティ銀行(平成16年4月～9月)の単純合算

用語説明

コア業務純益

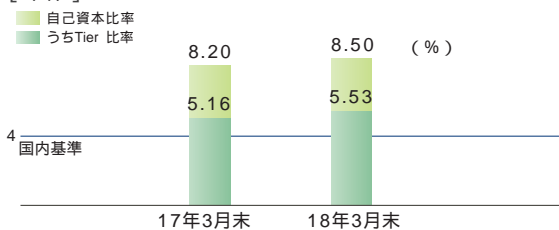
預貸金業務などによる“資金利益”や投資信託等の販売手数料などの“役務取引等利益”などを含む“業務粗利益”から経費を差し引いたもので、銀行本来業務の収益力を表す指標として一般的に用いられております。

$$\text{コア業務純益} = \text{業務粗利益 (除く国債等債券損益)} - \text{経費}$$

自己資本比率の状況

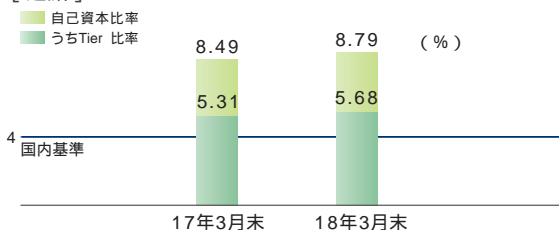
自己資本比率

[単体]



平成18年3月末の自己資本比率は、当期純利益の計上や資本政策の実施等による自己資本の増加により、単体で8.50%、連結で8.79%となりました。また、Tier 比率は、単体で5.53%、連結で5.68%となりました。今後も資本の充実を図り、自己資本比率の向上に努めてまいります。

[連結]



用語説明

自己資本比率

銀行の健全性を示す指標のひとつです。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本 (資本金など)}}{\text{リスク度を考慮した資産}}$$

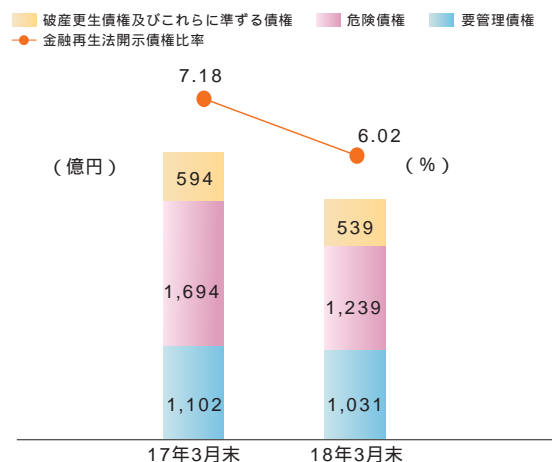
国内基準では4%以上を維持することが求められています。

Tier 比率

自己資本のうち資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目をもとに算出される自己資本比率です。

不良債権の状況(分割子会社合算ベース)

不良債権残高・比率



平成18年3月末の金融再生法に基づく開示債権の残高は、企業再生専門子会社や本部専門部署による企業再生支援と不良債権処理によるオフバランス化の促進に努めました結果、平成17年3月末比580億円減少し、2,810億円となりました。開示債権比率も1.16%低下し6.02%となりました。

今後も不良債権のさらなる圧縮に向けて企業再生支援と最終処理の促進を図ってまいります。

分割子会社合算ベース=銀行単体+西銀ターンアラウンド・パートナーズ(株)
+シティ・ターンアラウンド・サポート(株)

不良債権の保全状況(平成18年3月末) (単位:億円)

	債権額 A	保全額 B	担保・保証等		保全率 B÷A
			担保・保証等	引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	539	539	441	97	100.0%
危険債権	1,239	1,123	871	252	90.66%
要管理債権	1,031	575	389	185	55.77%
合計	2,810	2,238	1,703	535	79.64%

開示債権は、担保・保証等及び引当金により8割程度カバーされており、十分な保全状況です。

用語説明

金融再生法による開示債権の定義

破産更生債権及びこれらに準ずる債権
破産・会社更生・再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

危険債権
債務者が、経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態・経営成績が悪化し、契約通りの返済を受けることができなくなる可能性の高い債権

要管理債権
3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権